決算のご報告　連結財務諸表（要旨）

連結貸借対照表

単位：百万円

	第59期 2013年3月31日	第58期 2012年3月31日
資産の部		
流動資産	83,262	79,235
固定資産	56,636	49,515
資産合計	139,898	128,751
負債の部		
流動負債	35,270	36,129
固定負債	17,082	15,570
負債合計	52,353	51,700
純資産の部		
株主資本	84,561	80,468
その他	2,984	△3,417
純資産合計	87,545	77,050
負債純資産合計	139,898	128,751

連結損益計算書

単位：百万円

	第59期 2012年4月1日～2013年3月31日	第58期 2011年4月1日～2012年3月31日
売上高	161,602	147,392
売上原価	119,793	110,523
売上総利益	41,809	36,869
販売費及び一般管理費	33,857	31,213
営業利益	7,951	5,655
営業外収益	942	668
営業外費用	232	419
経常利益	8,661	5,905
特別利益	130	334
特別損失	1,610	1,404
税金等調整前当期純利益	7,181	4,835
当期純利益	5,040	3,604

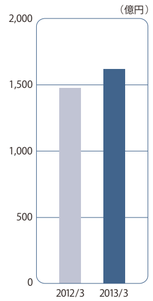
営業利益について

- 書籍関連については、第3四半期までは、出版物の重版率や部数が低下していましたが、第4四半期には徐々に回復し、営業利益率は改善しました。
- 雑誌／広告関連では、雑誌販売売上が減少していますが、徹底した原価削減・経費削減により、収益性が改善しました。
- 映像関連については、『貞子３Ｄ』のヒットやアニメ作品のパッケージ販売が好調に推移し、利益が増加しました。また洋画配給作品のコストコントロールを徹底したことなどにより、赤字基調であった映像事業が利益貢献事業へと転換しました。

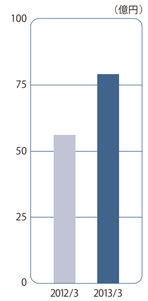
当期純利益について

- 投資有価証券評価損、関係会社株式売却損などの影響により、特別損失が16億10百万円となりました。また、法人税等が20億43百万円となり、当期純利益は50億40百万円（前期比39.8％増）となりました。

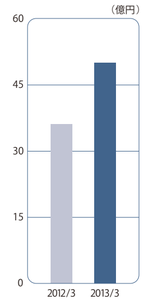
売上高



営業利益



当期純利益



会社役員

取締役会長	角川　歴彦
代表取締役社長	佐藤　辰男
代表取締役専務	井上　伸一郎
常務取締役	谷口　常雄 松原　眞樹 関谷　幸一 濵村　弘一
取締役	髙野　潔 山口　貴 塚本　進 太田　修 芳原　世幸 渡辺　彰 秋山　伴道 水島　真 安田　猛 横沢　隆 椎名　保 川上　量生
社外取締役	船津　康次 森泉　知行 髙須　武男
常勤監査役	若林　陽 髙山　康明
社外監査役	渡邊　顯 神谷　英一

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
定時株主総会の基準日	3月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告 公告掲載URL http://ir.kadokawa.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

プレゼントのお知らせ　20名様

今回は、「角川つばさ文庫」2冊を抽選で20名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、「角川つばさ文庫」の以下6タイトルの候補から2タイトルをお選びいただき、タイトルをご記入のうえ、角川通信のご感想や経営に関するご質問、お名前、ご住所、お電話番号とともに、ご応募ください。

1.『おれがあいつであいつがおれで』
2.『モンハン日記　ぽかぽかアイルー村　ハッピー生活のはじまりニャ』
3.『電池が切れるまで』
4.『カードファイト!!ヴァンガード』
5.『ジュニア版　空想科学読本』
6.『オンライン！ クリア不可能!? 悪魔のゲーム』

●あて先
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3
株式会社 KADOKAWA
IR・広報部「プレゼント」係

●応募締切り　2013年 7月31日(水)（消印有効）

発表は発送をもって代えさせていただきます。なお、取得した個人情報は当選者の方に商品を発送するためだけに使用し、他の目的では使用いたしません。

株式会社KADOKAWAのホームページはIR・財務情報に加え、皆さまに角川グループの事業内容をより深くご理解いただけるよう、グループ各社の最新情報や話題、事業展開などを満載しています。ぜひご覧くださいますようお願い申し上げます。

http://www.kadokawa.co.jp/

KADOKAWA

KADOKAWA CORPORATION
株式会社 KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3238-8411

第59期報告書 | 2012年4月1日～2013年3月31日 |

角川通信

http://www.kadokawa.co.jp/
2013 夏号 VOL. 34

KADOKAWA

新たなステージへの改革

2013年4月1日
株式会社角川グループパブリッシングを吸収合併し、純粋持株会社から事業持株会社へ移行

2013年6月22日
株式会社KADOKAWAへ商号変更

2013年10月1日 合併効力発生日
完全子会社９社※を吸収合併し、新体制がスタート

※角川書店、アスキー・メディアワークス、角川マガジンズ、メディアファクトリー、エンターブレイン、中経出版、富士見書房、角川学芸出版、角川プロダクション

角川文庫創刊65周年記念作品の『RDG レッドデータガール』は、人気ファンタジー作家の荻原規子先生が描く学園ファンタジー小説です。昨年の『氷菓』に続き、4月よりTVアニメ放映されました。原作小説はコミカライズや電子書籍にも展開されており、好評発売中です。

KADOKAWA

2013年6月22日開催の第59期定時株主総会でご承認をいただき、株式会社角川グループホールディングスから株式会社KADOKAWAへ商号変更いたしました。また、10月1日には、子会社９社※を吸収合併し、新体制で新たなスタートをきります。グローバルに展開する総合メディア企業を目指し、自由でダイナミックなIPの創造と展開を行なってまいります。

2013年3月期（1月から3月）の主なヒット作品

▼単行本
1位 とびだせ どうぶつの森 かんぺきガイドブック
2位 とびだせ どうぶつの森 ザ・コンプリートガイド
3位 龍が如く5 夢、叶えし者 完全攻略極ノ書

▼ライトノベル
1位 新約 とある魔術の禁書目録 ⑥
2位 バカとテストと召喚獣11
3位 魔法科高校の劣等性 ⑨ 来訪者編＜上＞

▼文庫
1位 ビブリア古書堂の事件手帖4 ～栞子さんと二つの顔～
2位 とんび
3位 ビブリア古書堂の事件手帖 ～栞子さんと奇妙な客人たち～

▼コミック
1位 よつばと！ ⑫
2位 坂本ですが？1
3位 氷菓3 オリジナルアニメBD付き限定版

▼ゲーム
1位 デモンゲイズ
2位 D.C.III Plus ～ダ・カーポIII プラス～
3位 さくら荘のペットな彼女

製作の現場から

おかげさまで「角川つばさ文庫」は、2012年度、児童文庫で売上シェアNo.1※となりました。

（※当社調べ）

「角川つばさ文庫」は、角川グループ各社がそれぞれの得意分野を結集させ、2009年3月3日に創刊しました。古典的な名作をはじめ、オリジナルシリーズ、ベストセラー、ノンフィクション、メディアミックスなど、幅広いジャンルで展開しています。そして創刊からわずか4年で念願の児童文庫シェア1位となることができました。今回は、「角川つばさ文庫」の成長を支える各部門の担当者からお話をうかがいました。

株式会社 角川書店
第一編集局 角川つばさ文庫
編集長代理 **坂本 真樹**

株式会社 アスキー・メディアワークス
キャラぱふぇ編集部
デスク **大石 亮太**

Q：「角川つばさ文庫」というネーミングにはどんな想いが込められていますか？

上村：物語の世界を自分の「つばさ」で自由自在に飛び、自分で未来を切り拓いていって欲しいという想いが込められています。創刊から今年は5年目となりますが、今振り返ってみても、とても良いネーミングだったと思います。

Q：創刊から現在に至るまでの過程を教えてください。

武内：まず、角川書店、富士見書房、角川学芸出版の3社でプロジェクトをスタートさせました。創刊後は3社に加え、アスキー・メディアワークス、エンターブレイン、メディアファクトリーの6社が参加するグループ横断で幅広いジャンルの作品をカバーする児童文庫となりました。

Q：各社が作品を持ち寄る形だと、調整も大変だと思いますが。

上村：各社の担当が一堂に集まる編集会議を月一回開催し、読者ニーズの分析結果やマーケットデータなどもできるだけ共有するようにしています。また、モニター会を開催し、どんな本を読みたいか、どんなイラストが好きかなど、子どもたちにヒアリングを行ない、この編集企画に活かしています。

坂本：担当編集者の考えと子どもの考えが大きく乖離すると、如実に販売部数に表れてきます。例えば、子どもたちのカバーイラストに対する想いは私たちが想像する以上に大きくて、シリーズ途中でイラストレーターを変えたら、その後の販売部数が落ちたこともありました。一見、同じ方が描いたようなイラストにしたつもりだったのですが。こうした部分を常にリサーチしていかなくてはいけないと思います。

大石：受け入れられる部分と受け入れられない部分のライン引きが毎年変わっており、そこを見定めること、「ここまでは許容範囲」ということを見極めるのが難しいです。

Q：グループ内でコラボ展開をすることはありますか？

大石：人気シリーズの『怪盗レッド』は、角川書店発行ですが、それをアスキー・メディアワークスで発行している小学生女の子向け雑誌「キャラぱふぇ」でコミカライズしたり、「キャラぱふぇ」のなかで「角川つばさ文庫」の告知をしたり、グループのリソースを活用しながら、読者を広げる工夫をしています。

Q：今後の展開について教えてください。

坂本：昨年、第1回「角川つばさ文庫小説賞」を開催しました。一般部門の大賞作品『四年霊組こわいもの係』は今年秋に刊行予定です。第2回の応募受付は、7月1日（月）からスタートし、今回からイラスト部門が新設されます。

Q：株主の皆さまにひと言お願いします。

武内：10月1日には、グループ内の出版社が合併し、新しいKADOKAWAとなりますが、「角川つばさ文庫」スタッフは、グループ横断レーベルとして、これからグループ全体が経験することを先取りしてきたチームです。新たな成長に向け、我々の経験をグループ全体に広げていきたいと思います。

上村：「角川つばさ文庫」は、読者の方が角川グループの作品に最初に触れる媒体だと思います。文芸、ライトノベル、コミックなどグループの各レーベルに読者を繋げ、将来にわたって角川グループコンテンツのファンになっていただく最初の入り口として、大きな役割を担っていると思います。今後もぜひ、ご期待とご声援をいただければと思います。

ひらけば、どこへでも。
角川つばさ文庫
www.tsubasabunko.jp

株式会社 角川書店
第一編集局 角川つばさ文庫
編集長 **武内 由佳**

株式会社 KADOKAWA
セールスマーケティング統括本部
書籍第一課
課長 **上村 裕子**

会長メッセージ

角川グループから One Company “KADOKAWA” へ

2013年3月期の決算は、過去最高の売上と経常利益になりました。新たにグループに加わったメディアファクトリーの貢献、課題だった映像部門の好業績と雑誌部門の立て直しに成功したことなどが、その主な要因です。

1年前に私は、角川のこれからの生き方ということで、3つの業界機能会社についてご紹介しました。出版界でBOOK☆WALKER、アニメ界でドコモ・アニメストア、映画界でムビチケ。それが今、成果が現れて、皆さんに中間報告できることをうれしく思っています。

日本のコンテンツ業界が、角川と一緒にやろうという考えに変わってきたのは、やはりアマゾン、アップル、グーグルという海外の大きな勢力が、日本マーケットに進出してきたためだと思います。彼らがワールドワイドなクラウド事業者として、コンテンツを「目玉商品」として、日本のマーケットで激突している。自分たちはどうしたらよいのかというコンテンツ事業者たちの持つ危機感が、角川の業界機能会社への参画を後押ししたのだと思います。

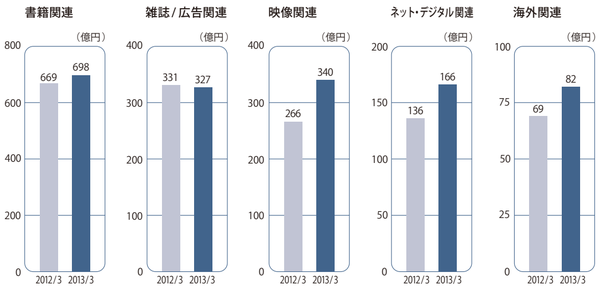
プラットフォームやエコシステムといった大きなビジネスモデルが構想できないから日本の産業は競争力を失ったのだ、ということがよく言われます。しかし、ユーザーのリテラシーの向上により、スティーブ・ジョブスが作った素晴らしいAppleのエコシステムも最近ほころびが見え始めています。ルネッサンス時代から現代に至るまで、常に大衆から生まれる新しい文化に目を向けないと、次の時代は切り開けません。私はユーザーが自己発信するCGM（Consumer Generated Media）と、プロの創作力による付加価値の高いコンテンツを中心としたエコシステム、つまり「エコシステム2.0」で出版社や映画会社がプラットフォーマーになるIT社会を目指します。

角川グループはこのたびワンカンパニーKADOKAWAになります。グループの持つIP（知的財産）、ID（顧客情報）を統合して活用し、新しいエコシステムを作らなくてはなりません。9社の吸収合併と社員2,700人の意識改革を成功させます。事業を行なうブランドカンパニーは、丁寧にコンテンツをプロデュースして会社の収益基盤を支える。それを統括する事業統括本部は、グループの資産を活用して新規のビジネス分野に挑戦する。これがKADOKAWAの成長戦略です。

トランスフォーメーションの改革は苦労するだろうと思いますが、これが解決した暁には、新しい社名に恥じない会社が誕生しているということを、株主の皆さまにもぜひ共有していただき、引き続き温かい目で見守っていただけますようお願い申し上げます。

取締役会長
角川 歴彦
Tsuguhiko Kadokawa

分野別売上高（通期）



（注）第2四半期より分野別売上高区分の変更を行なっています。前期の数値も当期と同じ基準で変更しています。

書籍関連	シリーズ作品の拡充、メディアミックス作品の拡販、新たな読者層の開拓などを進め、一般文庫が好調を持続しております。また、メディアファクトリーのグループ入りでより強固なシェアを確保したライトノベルも堅調に推移しました。
雑誌 / 広告関連	雑誌販売は減少傾向が続いていますが、カスタムマガジン、Web広告などが堅調に成長しています。また、本年3月には（株）ドワンゴとの合弁会社として（株）スマイルエッジをスタートさせ、ニコニコ動画などネット上における新たな広告ビジネスへの取り組みも始めています。
映像関連	公開映画のヒットやアニメ作品のパッケージ販売が好調に推移し、売上が増加しました。また、スタジオ事業も堅調に推移し、取扱作品も増加しています。
ネット・デジタル関連	出版が創出するコンテンツの展開を加速させています。特に「BOOK☆WALKER」においては、継続的なキャンペーンや新作同時発売などの施策とともに積極的な作品投入により、売上高を伸ばしています。
海外関連	台湾における出版事業が堅調に推移し、香港でも現地映画市場の盛り上がりを確実に取り込み、映像事業の業績を伸ばしました。また、海外ソフトの現地ローカライズによるゲーム事業も順調に推移しました。

社長メッセージ

新生 KADOKAWA として事業会社とひとつになり、新たな成長を遂げる未来に向かう

2013年3月期通期の連結業績は、売上高1,616億2百万円（前期比9.6%増）、営業利益79億51百万円（前期比40.6%増）、経常利益86億61百万円（前期比46.7%増）、当期純利益50億40百万円（前期比39.8%増）となりました。期末配当につきましては、経常利益が上場以来最高となったこと、ならびに今後の成長のために大規模な企業再編を行なうことを記念し、普通配当35円に記念配当10円を上乗せし、1株につき45円といたしました。

株式会社角川グループホールディングスは、6月22日の第59期定時株主総会の決議をもって株式会社KADOKAWAに商号変更し、新たなスタートをきりました。そして、10月1日には子会社9社を吸収合併いたします。

「KADOKAWA」への商号変更、また一連の企業再編によって、新生「KADOKAWA」は、日本のローカルな出版社からグローバルに展開する総合メディア企業を目指していきます。グループが一体となりメガコンテンツを創造し、それらを国内だけでなく海外にも積極的に展開していきます。

さらに、会社全体をネットデジタルに対応した組織とすることで、大きな「メガトレンド」をつかみにいきます。だからこそグループが総力をあげて新しい「KADOKAWA」というブランドを確立していくことが必要だと考えたわけです。

一方で、角川書店やアスキー・メディアワークス、エンターブレイン、メディアファクトリーといった皆さまにご愛顧いただいているグループ各社の会社名は「カンパニーブランド」として、また、角川文庫、電撃文庫、ザテレビジョンなどレーベル名や雑誌名の「サテライトブランド」もしっかりと残し、ひとつひとつをより大きなブランドに育てていきたいと考えています。合併する9社の事業会社は、BC（ブランドカンパニー）と呼ばれる新しい組織となり、10月以降も「カンパニーブランド」が存続する体制を構築します。

これまでの連邦経営では、各社独自のメディアミックス展開により、豊富なコンテンツを継続的に生み出す仕組みが確立されました。今までも、角川グループでは「サテライトブランド」が極めて健全に機能してきました。確かに、ローカル出版社として国内でコンテンツを展開していく限りでは、今までの連邦経営で良かったかも知れません。しかし、世界市場で活躍できる総合メディア企業となるためには、出版にとどまらず、グループが一体となって総力を結集し、メガコンテンツを生み出していく必要があります。

そのために私たちは、デジタルネイティブが人口の大半を占める時代に対応した組織体に変貌するのです。今まで培ったレーベルを大切にしながらも、グループ一体となって大きな事業に取り組んでいき、出版社体質からの脱却を図る、新生「KADOKAWA」として一体となった各組織が、足並みをそろえてネットデジタルに対応する、海外展開を促進させることで、大きな成長を遂げる未来に向かっていきます。

当社は、変化の激しい経済環境においても、絶えず成長を志向し、事業構造改革や、出版の枠にとどまらない新たなサービスへの挑戦を続けていく所存です。株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長
佐藤 辰男
Tatsuo Sato

コーポレートブランドの確立とブランドコントロール

TOPICS

PlayStation®Vita初の本格ダンジョンRPG『デモンゲイズ』1月24日発売

記憶を失い、宿酒場「竜姫亭」に運び込まれた主人公・オズとなり、半機械生命体「デモン」を支配する能力を持つ“デモンゲイザー”として冒険を繰り広げる『デモンゲイズ』。伝統の迷宮探索や自由度の高いキャラクターメイクなど、ダンジョンRPGに欠かせない要素は踏襲しつつ、魅力的なキャラクターと冒険をより快適に楽しめる新システム「トレジャーハンティングサークル」や「オートパイロット機能」を搭載。新世代のダンジョンRPGとして、初心者からコア層まで幅広いユーザーにお楽しみいただき、ロングヒット中です。

対応機種：PlayStation®Vita
希望小売価格：（PS Vitaカード版）6,090円（税込）
（ダウンロード版）5,040円（税込）

©2013 KADOKAWA GAMES / Experience

初詣客で賑わう埼玉県・鷲宮神社で『らき☆すた』グッズを中心に物販

2012年12月31日から2013年1月3日までの期間、『らき☆すた』の聖地として有名な鷲宮神社に、キャラアニが

出張営業しました。屋台にて「らき☆すた ラッキーくじ」をはじめとした各種関連グッズを販売。大晦日には「らき☆すた 大晦日年忘れすて～じ」も開催され、ミュージカル「らき☆すた≒おん☆すて」にて、泉こなた役を担当した酒井蘭さんと柊かがみ役を担当した櫻井ゆりさんのトークイベントが行なわれました。

『映画 鈴木先生』1月12日劇場公開

どこにでもいそうな平凡な教師が、どこにでも起こり得る問題について過剰に悩み、独自の教育理論によって解決していくドラマ「鈴木先生」。第49回ギャラクシー賞、第38回放送文化基金賞テレビドラマ番組賞をはじめとする数々の賞を総なめにした本作が、ついに映画化。

公開初日には角川シネマ新宿のほか、渋谷や川崎でも舞台挨拶を実施。主演の長谷川博己さんほか、富田靖子さん、風間俊介さん、臼田あさ美さん、土屋太鳳さんに加え、原作者の武富健治先生と河合勇人監督が登壇。外は相変わらずの冬空でしたが、どの会場でも大変な熱気に包まれました。

©映画「鈴木先生」製作委員会

「大人の音楽映画祭 ～レジェンドたちの競宴～」2月9日開催

本年度米国アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門を受賞した、傑作音楽ドキュメンタリー『シュガーマン 奇跡に愛された男』をはじめ、音楽界のレジェンドたちをテーマとしたハイ・クオリティなドキュメンタリー作品の数々を一

©Canfield Pictures / The Documentary Company 2012

挙に上映する映画祭が2月9日から4月12日まで開催されました。

マーティン・スコセッシ監督がメガホンを取った『ジョージ・ハリスン/リヴィング・イン・ザ・マテリアル・ワールド』に、大ヒット作『ボブ・マーリー/ルーツ・オブ・レジェンド』、そしてゴダールとローリング・ストーンズが奇跡のコラボを果たした『ワン・プラス・ワン』など全13本を上映。ジャンルを問わず様々な音楽作品を映画館で堪能できるファン垂涎のイベントとなりました。

壇上の様子：左からメル・ギル博士、浅見帆帆子さん、山川亜希子さん、山川紘矢さん

『ザ・メタ・シークレット』シリーズ14万部突破記念セミナー

全世界2,400万部『ザ・シークレット～引き寄せの法則』の原点となる『ザ・メタ・シークレット』は角川書店と中経出版のコラボ書籍として2012年12月に刊行されました。シリーズ累計14万部となった記念として、『ザ・メタ・シークレット』の著者であるメル・ギル博士が緊急来日。2月8日に東京・千駄ヶ谷にある津田ホールにて、1日だけの夢のトークイベントが行なわれました。

『あなたは絶対！運がいい』をはじめとして著著累計400万部を超えるベストセラー作家・エッセイスト浅見帆帆子さん、本書をはじめ『ザ・シークレット』『魂の伴侶』など数々のベストセラー書籍の翻訳を手掛けた山川紘矢さん、山川亜希子さんご夫妻を迎え、「あなたには叶えたい夢はありますか？」をテーマに語り合っていただきました。先着100名の予定を上回り、会場を急きょ変更したほど申し込みが殺到し、最終的には420名に参加いただきました。

『テルマエ・ロマエ』、『アニメ くるねこ』LINEスタンプ提供開始

NHN Japan株式会社が運営する無料通話・無料メールスマートフォンアプリ「LINE（ライン）」内の「スタンプショップ」にて、ビームコミックス『テルマエ・ロマエ』および『アニメ くるねこ』のスタンプの提供を1月10日より開始しました。「LINE」は気軽にコミュニケーションできるアプリとして爆発的に人気を高め、現在会員数1億人を突破。

スタンプ40個1セット：170円（税込）

©2010 Kuruneko Yamato/ PUBLISHED BY ENTERBRAIN, INC.／くるねこ舎

©Mari Yamazaki ／PUBLISHED BY ENTERBRAIN, INC.

トークに貼り付けるスタンプは企業の販促ツールとしても注目を集めています。『テルマエ・ロマエ』のなかから選んだカットに書き下ろしを加え、また『アニメ くるねこ』はアニメの好評場面カットからスタンプを作成しました。

©鎌池和馬／アスキー・メディアワークス/ PROJECT-INDEX MOVIE

アスキー・メディアワークス創立20周年記念作品『劇場版 とある魔術の禁書目録（インデックス）－エンデュミオンの奇蹟－』公開！

累計発行1,425万部を突破した電撃文庫の大人気シリーズ『とある魔術の禁書目録（インデックス）』を原作とする『劇場版 とある魔術の禁書目録（インデックス）－エンデュミオンの奇蹟－』が、2月23日より劇場公開となりました。本作は原作者・鎌池和馬先生による完全新作のオリジナルストーリーで、宇宙エレベーター「エンデュミオン」を舞台に、科学と魔術が奪い合う1人の歌姫をめぐる歌と奇蹟の物語。入場者には特典として、224ページの「電撃劇場文庫」計10万3,000部などがプレゼントされました。

原作：鎌池和馬　**イラスト：**はいむらきよたか
（電撃文庫／アスキー・メディアワークス刊）
配給：ワーナー・ブラザース映画

名作探訪（第8回）

雑誌『Newtype』
―角川グループ初のアニメ誌創刊―

テレビアニメ『Zガンダム』や『タッチ』の放映が開始された1985年3月、角川書店初のアニメ情報誌『Newtype』が創刊となりました。同年『カムイの剣』が角川アニメ第三弾として製作・公開され、アニメ事業の基盤が整ってきた時期にあたります。

すでに先行する「アニメージュ」「アニメディア」「マイアニメ」など競合誌を追撃するため、徹底した差別化が図られました。一例としてライバルがA4判やB5判だったのに対し、大きなA4ワイド判とし、その特徴を活かすため、見開きイラストでビジュアルを大胆に見せるレイアウトが多用されました。

また、アニメ情報だけでなく音楽や実写映画の情報も取り入れ、まさにNewtypeのアニメ情報誌として、急激に部数を伸ばしていったのです。

コミック市場に後発で参入した角川書店は、漫画家さんとの繋がりが当時充分でなかったこともあり、アニメやゲームといった隣接ジャンルから若い才能を積極的に求めました。編集者がアニメーターに作品を直接依頼するケースもあり、こうした挑戦が多くの新人作家のデビューするきっかけになりました。

『月刊ニュータイプ』5月号

創刊2年目に入った1986年4月号からは、永野護さんのコミック『ファイブスター物語（ストーリーズ）』の連載を開始。単行本は「ニュータイプ100%コミックス」シリーズとして刊行され、たちまち大ヒット。1989年には第1話をベースに劇場用アニメーション映画も公開されました。なお、コミックは2013年5月現在で12巻まで刊行、シリーズ累計850万部※を突破しています。

休載をしていた『ファイブスター物語』は、2013年5月号の『Newtype』で9年ぶりに連載を再開。同号はなんと発売3日で完売となり、雑誌では極めて異例の重版となり、ネットでも大きな話題となりました。

※『ファイブスター物語リブート』を含みます。

『ファイブスター物語（1）』
角川書店
ニュータイプ100%コミックス
著／永野 護